

ダイアジノンマイクロカプセル剤



■成分・性状

種類名	ダイアジノンマイクロカプセル剤
成分と含有量	ダイアジノン(化管法1種)……25.0% (2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6)-ジエチルチオホスフェート
化学名	
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体
比重	1.01
pH	7~9

■安全性

●毒性：普通物*
LD50値(mg/kg)または試験成績 Toxicol Lab.(英国)1993年

急性経口毒性	ラット ♂、♀ マウス ♂、♀	>5,000 >5,000
急性経皮毒性	ラット ♂、♀	>2,000
眼刺激性	ウサギ	陰性
皮ふ刺激性	ウサギ	陰性

*普通物とは毒劇物に該当しないものを指している通称。

●生態毒性(水生生物)：区分I(GHS分類)

コイ	急性毒性LC50	>1,000mg/l(96時間)
オオミジンコ	急性遊泳障害EC50	1.53μg/l(48時間)
緑藻	生長阻害ErC50	65.4mg/l(72時間)

●ミツバチへの影響：散布45日後の導入で、影響は認められず。

■適用害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダイアジノンを含む農薬の総使用回数	
かんしょ	ナカジロシタバ	1,000倍	100~300ℓ/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	3回以内 (マイクロカプセル剤の播付前の処理は1回以内、マイクロカプセル剤の散布は2回以内、粒剤の散布は2回以内)	
	やまのいも さといも(葉柄) らっかせい	コガネムシ類幼虫	50倍	100ℓ/10a	植付前	1回		全面土壌混和 又は畝立て前 作条散布
			25倍					
			25~50倍					
			50倍					
			25倍					
いちご	50倍	1,000ml/m ²	は種前 定植前(本圃) 植付時(仮植床)	2回以内				
なし(苗木)	25倍				400ml/m ²	ポット育苗時	1回	
つつじ類	500倍							8,000ml/m ²
ひのき(苗畑) すぎ(苗畑)	100倍	200~400ℓ/10a	25~50倍	100ℓ/10a	植付時	全面土壌混和	2回以内	
さくら	アメリカシロヒトリ	1,000倍	200~700ℓ/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内	
芝	シバツトガ スジキリヨトウ シバオサゾウムシ成虫	250倍	0.3ℓ/m ²	コアリノク時(目土前)	1回	土壌注入 散布 土壌混和		
	ケラ		1ℓ/m ²					
	シバオサゾウムシ幼虫 コガネムシ類幼虫		0.7~1ℓ/m ²					
樹木類	コガネムシ類幼虫	25倍	1ℓ/m ²	張り芝前	1回	散布 土壌混和		
		16g/培土m ³	400~2,000ml/培土m ³	鉢上げ時 又は鉢代え時				

⚠ 使用上の注意事項

- 使用前によく振ってください(沈殿)
- 散布液調製後は速やかに使用してください。
- 希釈調製後に静置しておいた場合は、散布前に十分攪拌してください。
- 散布量は対象作物の生育段階・栽培形態及び散布方法に合わせ、所定量の範囲内で調整してください。
- なしのポット育苗時に使用する場合は、処理面積に応じた使用量を散布し、軽く混和してください。
- いちごのポット育苗時にポット灌注で使用する場合は、使用量を1㎡当たり定植する株数で除した量を各ポットに灌注してください。
- コガネムシ類幼虫、シバオサゾウムシ幼虫に対して土壌注入処理をする場合には、農薬を高圧噴射できるインジェクターを使用してください。
- コガネムシ類幼虫に対して散布処理をする場合は、コアリノク時の目土前に処理してください。
- 樹木類の培土処理の場合、薬液が十分行き渡るように所定量の範囲内で使用量を調整し、培土と混和してください。
- ミツバチに対する注意
 - 巣箱及びその周辺にかけないようにしてください。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養

⚠ 安全使用上の注意事項

- 使用時は、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を換えてください。作業時の衣服などは他と分けて洗濯してください。
- 誤飲に注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に異常を感じた時は、直ちに医師の手当を受けてください。
- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください(弱い刺激性)
- かぶれやすい人は取扱いに十分注意してください。
- 公園などで使用する場合は、使用区域に縄囲いや立て札をたて、使用中及び使用後(最小限の当日)に関係者以外は立ち入らないようにしてください。小児、人畜等に留意してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ってください。

魚毒性等

- 河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください(甲殻類)
- 使用残りの薬液が生じないように調製し、使い切ってください。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空容器などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な所に保管してください。低温時は保管場所に十分注意し、凍結をさけてください。
- 火災時の措置…周辺火災の場合は速やかに容器を安全な場所に移動し、散水冷却してください。着火した場合は消火器(粉末、炭酸ガス、泡)にて消火してください。
- 漏出時の措置…少量の場合は、布等で拭取り回収してください。多量の場合は砂等に吸収させ、密閉容器に回収してください。火災時、漏出時の措置作業は必ず農業用マスク、手袋等の保護具を着用してください。
- 廃棄上の注意…使用残液が生じないように使い切ってください。洗浄水などは河川に流さず、周囲に影響のない方法で処理してください。空容器は環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 輸送上の注意…移送取扱いはていねいに行ってください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場等に放置せず、適切に処理してください。

この印刷物は2024年10月現在の登録内容に準拠して作成しました。

ダイアジノン
SLゾルの
最新情報は
こちら

日本化薬株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(明治安田生命ビル)
TEL.03-6731-5321 FAX.050-3730-0682
DPOZSL011Y2410Z2000



効きめが長い 安全性にすぐれる
ダイアジノンマイクロカプセル剤



農林水産省登録 第17620号 殺虫剤分類 1B

コガネムシ類幼虫に、1回使用で長く効く!

■特長

- ① 1回使用でコガネムシ類幼虫を150~180日以上防除。
ダイアジノンを高分子膜で包んだマイクロカプセル製剤のため、安定した状態で長期間保たれ、土壌中で150日から180日以上長期にわたり持続効果を発揮します。
- ② 毒性が大幅に軽減されました。
普通物*です。
- ③ 低臭性の薬剤です。
水ベースの製剤のため、散布時の臭いが少ない薬剤です。



*普通物とは毒劇物に該当しないものを指している通称。

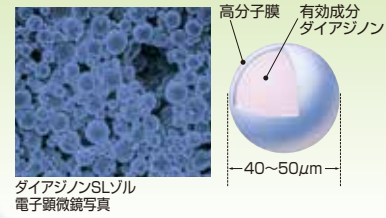
ダイアジノンは日本化薬株式会社の登録商標です。

ダイアジノンマイクロカプセル剤



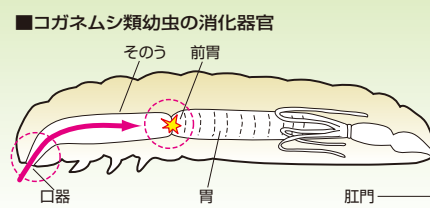
■マイクロカプセル製剤について

ダイアジノンSLゾルのマイクロカプセルは、平均粒径が40~50ミクロンの微粒子です。製剤は粘りのある白色の液体で、水に希釈すると牛乳状になります。



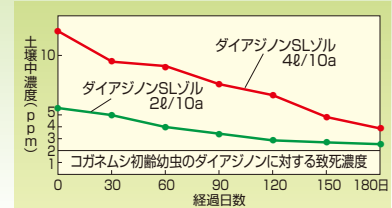
■ダイアジノンSLゾルの食毒作用

ダイアジノンSLゾルは、コガネムシ類幼虫の採餌行動とともに体内に取り込まれます。その際「前胃」と呼ばれる消化器官の中でカプセルの膜が破壊され、有効成分のダイアジノンが放出し、殺虫効果を発揮します。



■土壌中の安定性 日本化薬(株)

土壌中で150日から180日以上の長期にわたり効果を発揮します。また本剤は、灌水や降雨による土壌中の移動や流出が極めて少なく、常に安定して分散しています。



上手な使い方

かんしょ、さといも、やまのいも

植付前の1回使用で、収穫までコガネムシ類幼虫を防除できます。

効果的な散布方法

●動力噴霧機散布
薬液が霧状に飛散しないようにノズルを調整してください。



●乗用トラクター搭載散布
散布と土壌混和が同時にできます。



●軽トラック搭載散布
大容量のタンクを搭載できるため、大面積への散布に適しており、散布時間が短縮できます。
注) 半クラッチ走行は故障の要因となりますので、ご注意ください。



トラクター搭載散布の場合は、散布時に混和が同時に行なえます。

1 整地	2 薬剤希釈	3 薬剤散布	4 効果的な使い方	5 混和	6 植付
<p>散布前に畑の耕起、砕土を十分にを行い、ていねいに整地してください。</p>	<p>希釈後は直ちに散布してください。 使用前にはボトルをよく振ってください。</p> <p>薬量 10a当たり SLゾル2~4ℓ* 水100ℓ</p>	<p>畑の全面にまきむらのないよう均一に散布してください。薬剤のないところは効果がありません。</p>	<p>雑木林 果樹園 圃場の外周をていねいに散布 被害の多い圃場では、特に圃場の外周をていねいに散布してください。</p>	<p>散布後、なるべく早く混和してください。混和は15~20cmの深さで、圃場全面に均一になるようにしてください。</p>	

*やまのいものみ4ℓ

いちご

育苗時(ポット、仮植床)、本圃定植前の各1回使用で、コガネムシ類幼虫を長期間防除できます。マイクロカプセル剤なので、根痛みの心配もありません。

1 整地	2 薬剤希釈	3 薬剤散布	4 混和	5 定植
<p>散布前に耕起、砕土を十分にを行い、ていねいに整地してください。</p> <p>定植前の本圃でも使えます。</p>	<p>希釈後は直ちに散布してください。希釈後に静置した場合は、散布前に十分攪拌してください。</p> <p>使用前にはボトルをよく振ってください。</p> <p>SLゾル使用量(10a当たり) 本圃 4ℓ + 水 100ℓ 仮植床 2ℓ</p>	<p>本圃の全面にまきむらのないよう均一に散布してください。薬剤のないところは効果がありません。</p>	<p>散布後、なるべく早く混和してください。混和は15~20cmの深さで均一にしてください。</p>	

1 土詰め・植付	2 薬剤希釈	3 薬剤灌注	4 定植
<p>床土をポットに詰め、苗を植え付けます。</p>	<p>ポット育苗では500倍液で使用してください。</p> <p>使用前にはボトルをよく振ってください。</p> <p>SLゾル使用量(10a当たり) ポット育苗時 2ℓ + 水 1,000ℓ</p>	<p>育苗床に散布液がたまらないようにしてください。</p> <p>1ポット当たり110~140ccが目安です。(7,000~9,000ポット/10aの場合)</p>	

育苗期間中のコガネムシ類防除は必要ありません。

試験成績(コガネムシ類幼虫)

かんしょ 平成7年 鹿児島県大隅農業改良普及所

供試薬剤	薬量	被害いも率(%)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	12.6	-
A粒剤	9kg/10a	35.7	-
無処理	-	50.0	-

●品種:コガネセンガン ●薬剤処理:5/17 ●植付け:5/28
●調査:11/2に1区当たり30株について、コガネムシ類幼虫による食害痕数を調査し、被害いも率を算出した。

さといも 平成22年(社)日本植物防疫協会 研究所 宮崎試験場

供試薬剤	薬量	被害いも率(%)	防除価	収量(kg/5株)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	1.96	84	17.7	-
	50倍液100ℓ/10a	4.72	61	18.0	-
無処理	-	12.22	-	15.9	-

●品種:石川早生 ●区制:1区20株、3反復 ●薬剤処理:4/21に土壌全面に散布し混和した。 ●植付け:4/22
●放虫:7/6に若齢幼虫を各区10頭放虫した。 ●調査:10/4に各区中央部の5株を掘上げ、被害の有無と収量を調査した。

やまのいも 平成10年 新潟県農業総合研究所園芸研究センター

供試薬剤	薬量	被害株率(%)	被害度	対無処理比(%)	重量(g)	薬害
ダイアジノンSLゾル	25倍液100ℓ/10a	3.3	1.6	9.0	824.7	-
B粒剤	9kg/10a×2回	14.2	5.8	32.8	849.3	-
無処理	-	31.7	17.8	100.0	870.0	-

●品種:アルプス南部改良系A ●区制:1区54株、3反復 ●薬剤処理:4/21に土壌全面に散布し混和した。 ●定植:4/22
●調査:10/1に1区12.0㎡(40株)を掘取り、個体ごとの被害度及び被害部位について調査し、3区平均で被害株率を算出した。

いちご 平成13年(社)日本植物防疫協会 研究所 宮崎試験場

供試薬剤	使用液量	被害株率(%)	被害株数	生存幼虫数	薬害
ダイアジノンSLゾル500倍	1,000ℓ/10a	0	0	0	-
無処理	-	63.9	11.5	12.5	-

2区平均18ポット当たりの数値

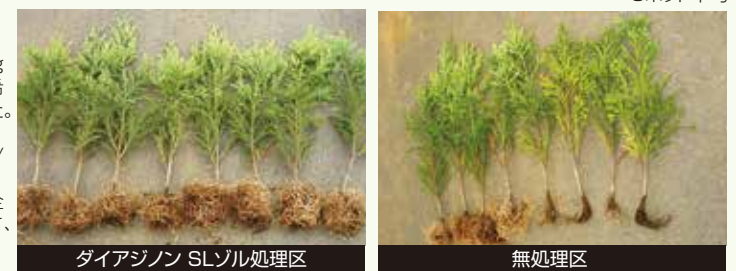
●品種:とよのか(9cmピニルポット育苗) ●ランナー受け:7月上旬開始 ●放虫:8/30の薬剤処理前に2~3齢幼虫を1頭/ポットの割合で放虫した。 ●薬剤処理:8/30に育苗ポット灌注した(80,000株/10aとすると125mℓ/ポット)
●調査:9/26(処理27日後・定植期)各ポット苗を分解し、生存幼虫数と根元の被害株数を調査した。

樹木類(コニファー) 平成12年 千葉県農業試験場

供試薬剤	希釈倍数	使用液量	幼虫数(匹)	新芽伸長(cm)	根生重(g)	薬害
ダイアジノンSLゾル	16g/培土m³	400mℓ/培土m³	0	40.2	71.3	-
	8g/培土m³		0	35.9	58.9	-
無処理	-	-	0.7	25.8	20.8	-

8ポット平均

●品種:山武杉(3年生)
●薬剤処理:培養土混和処理
培養土1m³当たり8g及び16gの供試薬剤を400mℓの水に希釈して、培養土に散布し混和した。
●鉢上げ:6/5
●卵接種:鉢上げ後、同日に4卵/ポットの割合で卵を接種した。
●調査:9/29(接種63日後)に全株を掘取り幼虫数、新芽の長さ、根生重を調査。



【考察】
コガネムシの防除対策として、畦立前のダイアジノンSLゾル(25倍希釈)処理は防除効果が高く、省力化の面からも有効と思われる。

【考察】
ダイアジノンSLゾル25倍希釈液の100ℓ/10a 全面散布土壌混和は、同剤50倍希釈液と比較して優る防除効果が得られた。

【考察】
ダイアジノンSLゾル25倍希釈液の100ℓ/10a 全面散布土壌混和は、対照区、無処理区と比較して被害株率、被害度ともに低く、高い効果が認められた。

【考察】
ダイアジノンSLゾル500倍の1,000ℓ/10a 育苗ポット灌注は、高い防除効果が認められた。

【考察】
本剤処理区は無処理区と比べて高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。処理薬量間に効果差は認められなかった。

ひのき苗 平成5年 愛媛県林業試験場

供試薬剤	薬量	得苗率(%)	薬害
ダイアジノンSLゾル	100倍液200ℓ/10a	22	-
	100倍液400ℓ/10a	64	-
A粒剤	9kg/10a	0	-
無処理	-	2	-

*得苗率=(無被害+微害)÷供試苗数×100

●供試苗:ひのき1回床替2年生苗 ●区制:1区144株、3反復 ●薬剤処理:4/16に植付直前に全面散布後土壌混和した。
●植付:4/16 ●調査:10/12に各区3分の2の苗木を掘取り、根の被害状況を調査した。

【考察】
異常気象(冷夏・長雨)により試験地全体で得苗率が低い傾向にあったが、ダイアジノンSLゾルは得苗率において対照薬剤に優る効果が認められた。